

シンポジウム 科学映画のこれまでとこれから

いのちの科学映像が 切り拓くもの

▶ アイカムの 50 年の足跡から考える ◀



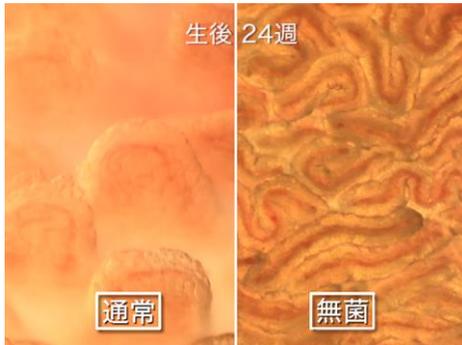
2022 年 **11 月 23 日** (水・祝) 13:00-17:00 (12:30 開場)

アカデミー文京学習室 (文京シビックセンター地下 1 階北側)

東京メトロ丸ノ内線・南北線後樂園駅直結、都営地下鉄三田線・大江戸線春日駅直結

- 当日会場にて受け付けますが、できるだけ事前に[申し込みフォーム](#)にご記入ください (定員 60 名) (フォームは市民科学研究室ウェブサイトにあります)
- 資料代 : 1500 円 (学生は 1000 円)
- お問合せ : 市民科学研究室 03-5834-8328

renraku@shiminkagaku.org



1. **アイカム生命映像の特質と意義** [25 分]
上田昌文 (NPO 法人市民科学研究室・代表理事)
2. **アイカムの歩みをふりかえる** [30 分]
川村智子 (株式会社アイカム・代表取締役社長)
3. **映画上映** [30 分+32 分+他に短編 2 本]
『共生のはじまり』 (2011 年)
『医真菌学の歴史を訪ねて-太田正雄と真菌研究』 (1996 年)
4. **専門家を交えての議論** [上記 2 名を加えて、40 分]
細野朗 (日本大学生物資源科学部教授)
山口英世 (帝京大学名誉教授)
松井毅 (東京工科大学応用生物学部教授)
武田純一郎 (株式会社アイカム・代表取締役会長)
5. **会場参加者を交えての質疑応答・議論** [40 分]

映像によって「科学」をどう伝えるか—これまでの科学映画の多くがこの意図のもとに制作され、享受されてきたが、CG (コンピュータ・グラフィック) 技術があたりまえになった現在、TV 科学番組が科学映画をなきものにしてしまったようにも見える。しかしそれは本当か。実写でしかとらえられない「いのち」の姿を追い続けてきたアイカムは、研究者との協同により「生きている姿」を可視化することで、新たな科学的発見をも生み出し、その映像作品の哲学的な深みや美しさも相まって、世界的評価を受けてきた。今後の生命科学研究において映像の持つ意義・可能性にも目を向けて、アイカムの 50 年の歩みをふりかえりつつ、科学映画のこれからを考える。

共催 : NPO 法人市民科学研究室 株式会社アイカム